

タイトル、氏名（所属）、発表要旨

掲載は発表応募順

1. phraseology に基づく大学生用テキストとそれを利用した教育実践

井上亜依（防衛大学校）

本発表は、大学生の英語力向上を **phraseology** の観点より目指し、作成したテキストの紹介とその教育実践を報告する。このテキストは、ヨーロッパ言語共通参照枠(**Common European Framework of Reference for Languages, CEFR**)の **B1** レベルから **B2** レベルに当てはまり、そのテキストをどのように大学の教育現場で実践し、どのような成果が得られたのか報告する。(195 字)

2. 定型連鎖の知覚と処理—音読課題データからの考察—

磯辺ゆかり（関西学院大学大学院）

高頻度の単語連鎖である定型連鎖はメンタルレキシコン(**ML**)内で一つの語彙項目として格納され、ユニット性の高い心的表象を形成していると考えられている。本研究では、音読課題における音読潜時、発話速度および語連鎖親密度との関係などから、日本人 **EFL** 学習者の **ML** 内における高頻度連鎖の心理的実在性について検証を試みた。

3. バイリンガル版日本マンガにおける擬態語の日英表現比較

宮久保まゆみ（関西学院大学大学院修了生）

英語よりも日本語の擬態語が数多く存在する。特にマンガでは、数多くの擬態語の使用が見られる。日本マンガを英訳する際、擬態語は正確な英訳を当てはめることは容易ではないだろうと考える。日英の擬態語の性質の違いを考慮に入れ、日英語記載されているバイリンガル版の日本マンガを基に擬態語表現の差について検討する。特に日本の生活文化など、翻訳する場合に生じる語差について考察する。

4. TOEIC のフレーズ/コロケーション

塚田幸光（関西学院大学）

TOEIC のフレーズ/コロケーションにはどのような特徴があるのだろうか。改訂以降、難化する **TOEIC** テストの傾向として、無視できないのがフレーズ/コロケーションである。本発表では、**TOEIC** というジャンルの性質を示した上で、**TOEIC** に顕著なフレーズ/コロケーションを概観する。そして、これらのフレーズ/コロケーションと英語学習の問題についても検討しようと思う。